

に落入りしめたと云ふ。

其側には敬言部補の派出所がある。現場には一人。若き巡查口立ったまゝ、之の現状を見てゐたと云ふ。

又多数の會社の備員達は『ヨクヤツク』と言つて笑つて居たと云ふ。

一方哲倒したヤク女は既に脈薄を止め、手も足も冷たく顔面蒼白となつた。手早くの婦人達は、『オッ、ア、ア、』と泣き乍ら無中になつて呼ぶ求めたが最早何の返事もなかつた。ヤク女は急激なる揺打、遂に哲倒、蹴る撲るのむごい打に側から見ては『死んだ』ものと思ひ程意識を失つては舞つたのだった。

烈しき揺打を目前に見た婦人達は、『可愛想にヤクさんは殺された』と口々に呪の聲を發してゐた。

かゝる悲痛を極めた中にも仲間を愛する多数の婦人の感情は益々反抗的に激成され、無我無中に『人殺すなら皆んな殺せと喚き叫ぶ声は漸次深き山中に轟響き響きわたつた。

此報に傳した一本松部落の人々は男女皆下り来り同じく彼女の周囲を取

りよき憤激措く処を知らず醫醫師を呼ぶ／＼と云ふ声や、巡查は之れを見守りながらなどと悲痛を叫ぶか怒禱の如く叫ばれた。

争議団本部に第一回の傳令が走りつたのは此混乱の最中の状況を察知されたものである。従つて傳令の報告は『今一本松で會社の奴は土井ヤクが殺された、水も吞まぬ、脈もない』

不意の出発事に怒馬いたが争議団本部は直ちに友の言葉を通じて傳令を送つた

『死んだなら其場から動かしはならぬ幹部も行くから手をつけるな』

争議団幹部の出動

敬言察署に通過された事件の報告 !!

第一回の傳令来るや直ちに角野敬言察署に山口岸、金、両幹部はかけつけ其真相を知らせた。敬言察署者は

『卒倒したと云ふ報告に次いで蘇生した』との報告があつた。との竹間單なる事下であつた。

過ぎし争議中の諸事件につき常に會社は随分なる手段を以つて其